

マルフジ杯少年野球大会規約

◎適用規則

1. 大会は、トーナメント方式で決する。
2. 各試合は7回戦又は1時間30分とする。但し、決勝戦に限りコールドゲームなし7回戦又は2時間とする。

これは時間を優先し制限時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。
ただし勝っているチームが最終回となるイニングの表の攻撃中に制限時間が経過した場合、裏の攻撃終了まで試合を続行する。勝っているチームが後攻の場合、表の攻撃終了後に試合を終了させる。

試合時間は、主審による試合開始のプレーコールを始まりとし、次イニングに入る基準は、当該イニングの第3のアウトコールが行われたその時に制限時間内の場合とする。
3. 7回終了時または前号の時間経過後の後攻チーム攻撃終了時に同点の場合、タイゲームとする。タイゲームとなった場合は特別延長ルールで勝敗を決する。
4. 特別延長ルールは1イニングとし、前回最終打完了者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次前の打者とし、無死満塁で最終打者の次打者からの攻撃とする。

また、1イニング終了時同点の場合はさらに1イニング行ない、なお同点の場合は、監督、コーチの抽選により決する。
5. 得点差によるコールドゲームは、4回成立10点差、5回成立7点差とする。ただし準決勝および決勝戦については5回成立7点差とする。
6. 雨天及び日没によるコールドゲームは4回終了時で試合成立とし、その決定は大会運営本部が行う。
7. 出場チームは試合開始予定30分前までに監督又はコーチが大会運営本部にて出場申告を行い、メンバー表3部を提出して登録選手名簿との照合を受けること。選手の追加登録は出場申告するまでは可能とする。
8. 選手は試合開始時間5分前にはベンチ前に整列をし、主審の合図を待つこと。
9. 用具、装具等は（公財）全日本軟式野球連盟規程細則 第12条に定められたもの以外は使用できない。
10. ベンチ内に入る事の出来る人員は、ユニフォームを着用した選手25名と監督、コーチ2名、及び自チームの帽子を着用したチーム責任者、スコアラー各1名とする。
11. 監督がグラウンドに出てタイムの制限に関して、守備側の作戦のため指示を与える回数は1試合につき3回までとする。同一イニングにグラウンドへ出て、2度目の指示を与える場合、投手交代になる。但しその時のタイムは回数に数えない。

特別延長時のタイムは攻撃側、守備側共に2イニングで1回とする。
12. 不正投球は、明らかな場合は直ちにバークとし、紛らわしい行為について1度目は注意、指導を行い、同試合中に同じ行為を繰り返した場合はバークとする。
13. ボールデットによる進塁について、投手の投球（牽制球含む）がデットラインを超えた

場合はテイクワンベースとする。野手の投球がデットラインを超えた場合はテイクツーベースとする。

14. 変化球は一切禁止する。ただし1回目は注意を行い、以降明らかに変化球とみなされた場合は、すべてボールと判定する。
15. 投手の投球回数制限は、本大会において各チームの努力義務とする。
16. 投手による投球練習の球数は、初回7球、イニング間3球、投手交代時は5球とする。
17. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は監督からのみ認める。また判定に対する抗議は認めないことについては、チーム全員に徹底して指導しておくこと。
18. ベンチは、組合せ番号の小さいチームを1塁側とし後攻とする。但し、準々決勝以降は先行・後攻はキャプテンのジャンケンにより選考する。
19. それぞれのグラウンドによるルールは大会運営本部が決定する。
20. この適用規則に定めのない事項は、本年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技者必携に準ずることとする。
21. その他重要事項
 - ・ 球場内外問わずマナーには留意し、試合中の言動には特に慎むこと。
 - ・ 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は禁止とし、特に選手個人に対する野次は厳禁とする。応援者の悪質な行為や野次もチームとしての責任を負うものとする。
 - ・ 鳴り物入りの応援は禁止し、ベンチ内においても同様とする。但しメガホンは監督が選手に指示するときのみ1つ使用を認める。
 - ・ ベンチ内は禁煙とし、定められた場所以外での喫煙を禁止する。
 - ・ 大会運営本部の指示に従わないときには、退場させる場合がある。
 - ・ スポーツマンシップにのっとり正々堂々と全力を尽くして競技を行うこと。
 - ・ ネクストバッターサークル内の次打者は、危険防止の為、低い姿勢で待機すること。

◎案内、依頼等

1. グラウンド作りやグラウンド整備、ボールボーイ、審判員へのお茶出しは福生シニアで行います。
2. 3回終了にはグラウンド整備を行います。その際に審判員にお茶出しを行います。
3. 試合球は、福生シニアで用意します。
4. 試合会場への自動車の乗り入れは出来るだけ乗り合いでお願いいたします。グラウンドによっては台数制限をかける場合もあります。(原則として1チーム4台以下)
5. 試合会場には、同じ会場で試合が開催されている等の事情も含め、試合前の準備運動が可能なスペースがない場合があります。同じ会場で試合が開催されている場合、投球練習のバッテリーのみブルペン等で練習が可能です。
6. 大会運営上、試合日程は1回戦を11月中、2回戦・3回戦を12月中に消化することを原則とします。試合日程の調整につきましてはできる限り各チーム事情を考慮しますが、福生シニア担当者と連絡を密にし、日程調整にご協力いただきますようお願いいたします。
7. 試合開始時間は、第一試合/9:00、第二試合/10:45、第三試合/12:30、第四試合/14:15となりますが、場合により変更する可能性もあります。

◎審判員

1. 1・2回戦は各チーム2名を派遣、担当し、以下のローテーションとします。
 - (ア)試合会場1日4試合の場合：試合開始時間の午前と午後で分け、前後審判とします。
 - (イ)試合会場1日3試合の場合：試合開始時間の午前と午後で分け、それぞれの前後審判と、午前か午後にて1試合のみ行う方の試合を当該チーム2名ずつの出し合いとします。
 - (ウ)試合会場1日2試合の場合：前後審判とします。
 - (エ)試合会場1日1試合の場合：当該チームの出し合いとします。
2. 3回戦・準々決勝は主審および二塁審判は福生シニアが担当し、当該チームが一塁および三塁を各チーム1名が担当します。
3. 準決勝以降、審判は福生シニアが担当します。
4. 主審および二塁審判は、原則として組合せ番号の大きいチーム(3塁側ベンチ)が担当し、相手チーム(1塁側ベンチ)が一、三塁審を担当します。ただし、チーム事情により主審を担当できない等の場合は、両チームの協議により変更することは差し支えありません。
5. 上記を原則としますが変更する場合があります。その際前以って、試合会場、開始時間、審判配置等を福生シニアから確認の連絡をしますので、その指示に従って下さい。

◎表彰

1. チームを表彰するほか、個人賞として最優秀選手賞を優勝チームから、優秀選手賞を準優勝チームから、敢闘賞を3位チームからそれぞれ1名表彰します。なお、個人賞の選手の選定は各チームに一任します。
2. 1試合につき、敗戦チームから敢闘賞1名を選出します。選定は該当チームに一任します。
3. ホームラン時には、そのボールを記念ボールとして贈呈します。打球の判定は大会運営本部が決定します。